琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　啓発・広報(Ⅴ)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-01 キーワード (Ja): 在沖縄米軍関係者, 現地広報活動, 米国財務長官来日, 大臣内奏用資料, 返還協定に関する報道, 国会への中間報告, 寄稿・広報資料、返還協定反対論, 自民党, 公用地等の暫定使用, 沖縄復帰祝典 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43487

大臣秘書官

条約課長

安全保障課長

アメリカ局長

参事官

北米オ一課長

福田大臣 あいさつ(案)について

67.2.17.
米 北一

2月16日兵藤社書官より、来る26日沖縄現地の福田後援会が"復帰を祝う集い"を開催し、大臣はこの会合に出席はされないが、挨拶(代読)をお寄せになる由をもって、その案文起草方御指示がありました。よって、当方にて別添案文を作成しましたので、御高閲願い上げます。

福田外務大臣 あいさつ(案) 2.26

御列席 ~~沖縄~~の皆様。 本日は御多忙中お集りいただきまして誠に私は本日皆様お集りのこの会に出席できないことは ~~誠~~ 大変に残念でありますが、沖縄の祖国復帰はいよいよ目前に迫って参りました。この機会に一言お祝いの気持をこめて御挨拶申し上げたいと存じます。

御承知のとおり、沖縄返還協定は昨年12月22日国会の承認を得、私達政府関係者は、目下沖縄の

有難とうございます。当日は官様より電報等でもすまして私に対し沿かい激励の文書をして頂戴しておりますことに対してすべて予が衷心より御喜び表したいと思います。

円滑なる祖国復帰を迎えるべく、
その準備に全力を挙げております。~~その~~
~~一つの表れと申しますか~~ 去る1月6日
及び7日には米国サン・クレメンテにおきまして
~~行われました~~ 日米学術会議が行なわれました。
~~の成果~~
~~について、内報告いたします~~。私は、
この会議に佐藤総理に同行して出
席致しましたが、その際御承知のとおり沖縄返還の
期日を本年5月15日に確定いた
~~[illegible]~~した。わけであります。
私共と致しましては、沖縄の皆様を始

め、日本全国民が一日も早い復
帰を望んで来られたことは十分承
知しており、この願望を体して沖縄の
早期復帰実現のため全力を尽して
参りました。一方、沖縄の復帰に際
しては、日米双方共に種々の準備が
必要であり、かかる準備を整えてこそ
円滑な本土復帰を期しうることは
言うまでもありません。従って、今回
の沖縄返還日決定に当っては、一日も
早い復帰実現を念頭に、そのための

△この期日は最終的には
佐藤総理とニクソン大統領の間で決定されたものでありますが

諸準備に要する期間を慎重に考慮しつつ対米交渉に当りました。その結果
首脳会談において5月15日と決定した次第であります。△ ~~これは~~ 実際上望み得る最も早い返還日であると思います。

次に、サン・クレメンテ会談におきましては、返還時において沖縄が核抜きであることを更に確認すること及び返還後において米軍の施設・区域をできる限り整理縮小するよう十分の考慮が払われること等の諸点についても ~~[illegible]~~ ＊ニクソン大統領を説得し、合意に達しました。

沖縄の核抜き返還につきましては、1969年11月の日米共同声明第8項で明らかなとおり、日米最高首脳間の深い相互理解と信頼に基づく確約であって、その実施については なんら疑いの余地のないところでありますが、この確約が ~~返還協定交渉~~ に当っては これを更に明確にするため、協定~~第9条~~ により 秘化されていない 取り扱い ~~において核に関するわが~~ 国の政策に 牴牾しない 沖縄返還を 条約文として明記した次第であり、「核抜き」返還は明確に約束されていると

しかしながら、核に関する我国の
方々の右気持を十分理解してあります。また
昨年11月24日衆議院において採
択された決議も十分

考慮に入れ、協定上の約束以上に必
要であるという意味ではないが心情
的には念には念を入れるという意味
で、沖縄返還時における核の不存在
を確認するための何らかの方法がない
ものかということにつきまして米側とも話合いを行なって
まいりました。その結果今般サン・クレメンテ
首脳会談において、ニクソン大統領は
沖縄における核兵器に関する米国政
府の確約が完全に履行された旨の
確認を返還の際行なうとの米国政

庭の意向を明らかにするに至ったものであります。

この会談で沖縄関係につきまして一番骨を折ったのは、~~まず、復帰後の沖縄における~~基地の整理縮小の問題であります。この問題につきましては、サン・クレメンテ会談において、佐藤総理及び私から大統領に対し、在沖縄米軍施設・区域、特に人口産業地域及び沖縄の産業開発と密接な関係にある地域~~にある~~の米軍施設・区域が復帰後できる限り整理縮小されることが必要と考える理由を地図を広げて縷々説明しました。

た。~~これに対し~~ 1の結果、大統領は、~~双方に~~ 直接に ~~受諾しうる施設・区域の調整を~~ 主体と両立する範囲内におきまして基地の整理縮小の ~~目的に従いつつ復帰後行なうに~~ 総合の相談を致しましょうということを ~~当てこれらの要素は十分に考慮に入れ~~ 約したわけであります。 ~~られるものである旨を考えましたのであります~~。

従って、復帰後整理縮小されるべき施設・区域につきましては、今後日米間において具体的に協議が進められることになりますが、前述のサン・クレメンテ会談の際の話合いの結果を十分踏まえつつ、現地の皆様 [redacted] の要望にも可能の考慮を払

い、対米交渉に臨む考えであることを
はっきり申し上げたいと思います。

さて、沖縄の本土復帰まで、あと
80日を残すのみとなりました。戦後
四・半世紀以上にわたり、法律、経済、社
会等のあらゆる分野で本土と異った諸
制度の下に置かれてきた沖縄の皆様
にとって、祖国復帰ということは、皆様の実生活の~~各般の~~
~~[illegible]~~ にとっても大きな変革であることも
承知しております。その意味で、私はここで
単に「復帰 お芽出度う」と申上げるだ

けでなく、平和憲法の下に本土へ~~[illegible]~~
~~[illegible]~~ 復帰することが、~~各業共に実現され~~、心
から「復帰してよかった」と言って頂けるものとなる
よう、復帰後の特民生活の確く保と、向
上に極力邁進する覚悟であ~~ることを~~
~~お約束致したいと思います。~~
ることを一段と強く申し上げておきたい
と存じます。

福田外務大臣あいさつ　（案）

昭和四十七年二月二十六日

御列席の皆様。本日は御多忙中お集りいただきましてまことに有難うございます。常日頃皆様より電報等をもちまして私に対し温い激励と御支援のお言葉を頂戴しておりますことに対しまして、まず衷心より謝意を表したいと思います。私は本日皆様お集りのこの会に出席できないことは大変残念でありますが、沖縄の祖国復帰はいよいよ目前に迫つて参りましたので御挨拶申し上げたいと存じます。

御承知のとおり、沖縄返還協定は昨年十二月[illegible]国会の承認をえ、私達政府関係者は、目下沖縄の円滑なる祖国復帰を迎えるべく、その準備に全力を挙げております。去る一月六日及び七日には米国サン・クレメンテにおきまして日米首脳会談が行なわれました。私は、この会談に佐藤総理大臣に同行して出席いたしましたが、その際御承知のとおり沖縄返還の期日を本年五月十五日に確定いたしたわけであります。

私どもといたしましては、沖縄の皆様を始め、日本全国民が一日も早い復帰を望んでこられたことは十分承知しており、この願望を体して沖縄の早期復帰実現のため全力を尽して参りました。一方、沖縄の復帰に際しては、日米双方ともに種々の準備が必要であり、かかる準備を整えてこそ円滑な本土復帰を期しうることはいうまでもありません。従つて、今回の沖縄返還日決定に当つては、一日も

早い復帰実現を念頭に、そのための諸準備に要する期間を慎重に考慮しつつ対米交渉に当りました。その結果首脳会談において五月十五日と決定した次第であります。この期日は最終的には佐藤総理、ニクソン大統領の間で決定されたものでありますが、実際上望みうる最も早い返還日であると思います。

次に、サン・クレメンテ会談におきましては、返還時において沖縄が核抜きであることをさらに確認すること及び返還後において米軍の施設・区域をできる限り整理縮小するよう十分の考慮が払われること等の諸点についてもニクソン大統領を説得し、合意に達しました。

沖縄の核抜き返還につきましては、一九六九年十一月の日米共同

声明第八項で明らかなとおり、日米最高首脳間の深い相互理解と信頼に基づく確約であつて、その実施についてはなんら疑いの余地のないところであります。しかしながら、核に関する県民の方々のお気持を十分理解しておりますし、また昨年十一月二十四日衆議院において採択された決議も十分考慮に入れ、協定上の約束以上に必要であるという意味ではないが、心情的には念には念を入れるという意味で、沖縄返還時における核の不存在を確認するためのなんらかの方法がないものかということにつきまして、米側とも話合いを行なつてまいりました。その結果、今般サン・クレメンテ首脳会談において、ニクソン大統領は沖縄における核兵器に関する米国政府の確約が完全に

履行された旨の確認を返還の際行なうとの米国政府の意向を明らかにするに至つたものであります。

この会談で沖縄関係につきまして一番骨を折つたのは基地の整理縮小の問題であります。この問題につきましては、サン・クレメンテ会談において、佐藤総理及び私から大統領に対し、在沖縄米軍施設・区域、特に人口密集地域及び沖縄の産業開発と密接な関係にある地域の米軍施設・区域が復帰後できる限り整理縮小されることが必要と考える理由を地図を拡げてる説明しました。その結果、大統領は、返還後に安保条約と両立する範囲内におきまして基地の整理統合の相談をいたしましようということを約したわけであります。従つて、復帰後整理縮小されるべき施設・区域につきましては、今後日米間において具体的に協議が進められることになりますが、前述のサン・クレメンテ会談の際の話合いの結果を十分ふまえつつ、現地の皆様の要望にも万全の考慮を払い、対米交渉に臨む考えであることをはつきり申し上げたいと思います。

さて、沖縄の本土復帰まで、あと八十日を残すのみとなりました。戦後四・半世紀以上にわたり、法律、経済、社会等のあらゆる分野で本土と異なつた諸制度の下におかれてきた沖縄の皆様にとつて、祖国復帰ということは、皆様の実生活にとつても大きな変革であることを承知しております。その意味で、私はここで単に「復帰お目出度う」と申し上げるだけでなく、平和憲法の下に本土へ復帰することが、心から「復帰してよかつた」といつていただけるものとな

るよう、復帰後の県民生活の確保と、向上に極力まい進する覚悟であることを一段と強く申し上げておきたいと存じます。

秘密表示（朱印）

部数指示	発信用	執務用	備考
主信	2	1	
付属			

発送日 処理日 昭和47年2月27日
発信 タイプ 校査

文書課長 半公信案 （分類）

公信番号 米北1合 第 半公信 号
公信日付 昭和47年2月26日

~~大臣~~
政務次官
事務次官
外務審議官
外務審議官
~~官房長~~

主管
アメリカ局長
参事官
北米第一課長

起案 昭和47年2月24日
起案者 有地 電話番号 2465

協議先

受信者 在米 村田書記官
在沖縄 村角書記官

発信者 深田北米第一課長

写送付先

（希望発送日） 月 日

件名 沖縄問題（福田大臣あいさつ案送付）

26 144

GA-2 外務省 回覧番号

昭和47年2月26日（米北1合）

深田北米第一課長

（件名）
沖縄問題（福田大臣あいさつ案送付）

引用公・電信日付・番号

2月26日沖縄現地で開催される福田後援会の「復帰を祝う集い」に福田大臣が寄せられたあいさつ（代読）案を何ら内容考までに別添送付します。本信送付先 在米 村田書記官 沖縄 村角書記官

※付属添付 ☑ 付属空便（行）☐ 付属空便（DP）☐ 付属船便（貨）☐ 付属船便（郵）☐

（※印は文書課記入）

GA-2-1 外務省

福田外務大臣あいさつ　（案）

昭和四十七年二月二十六日

御列席の皆様。本日は御多忙中お集りいただきましてまことに有難うございます。常日頃皆様より電報等をもちまして私に対し温い激励と御支援のお言葉を頂戴しておりますことに対しまして、まず衷心より謝意を表したいと思います。私は本日皆様お集りのこの会に出席できないことは大変残念でありますが、沖縄の祖国復帰はいよいよ目前に迫つて参りました。この機会に一言お祝いの気持をこめて御挨拶申し上げたいと存じます。

御承知のとおり、沖縄返還協定並びに関連諸法案は昨年十二月国会の承認をえ、私達政府関係者は、目下沖縄の円滑なる祖国復帰を迎えるべく、その準備に全力を挙げております。去る一月六日及び七日には米国サン・クレメンテにおきまして日米首脳会談が行なわれました。私は、この会談に佐藤総理大臣に同行して出席いたしましたが、その際御承知のとおり沖縄返還の期日を本年五月十五日に確定いたしたわけであります。

私どもといたしましては、沖縄の皆様を始め、日本全国民が一日も早い復帰を望んでこられたことは十分承知しており、この願望を体して沖縄の早期復帰実現のため全力を尽して参りました。沖縄の復帰に際しては、日米双方ともに種々の準備が必要であり、かかる準備を整えてこそ円滑な本土復帰を期しうることはいうまでもありません。従つて、今回の沖縄返還日決定に当つては、一

日も早い復帰実現を念頭に、そのための諸準備に要する期間を慎重に考慮しつつ対米交渉に当りました。その結果首脳会談において五月十五日と決定したのであります。この期日は最終的には佐藤総理、ニクソン大統領の間で決定されたものでありますが、実際上望みうる最も早い返還日であると思います。

次に沖縄の核抜き返還については、一九六九年の日米共同声明で明らかなとおり、核抜き返還は日米最高首脳間の深い相互理解と信頼に基づく確約であって、その実施についてはなんら疑いの余地のないところであります。この確約が返還協定にも条文化されております。しかしながら、私共も核に関する沖縄の方々のお気持を十分理解しており、また昨年の沖縄国会において採択された決議も十分考慮に入れ、沖縄返還時における核の不存在を確認するためのなんらかの方法がないものかということにつきまして、米側とも話合いを行なってまいりました。その結果、今般サン・クレメンテ首脳会談において、ニクソン大統領は沖縄における核兵器に関する米国政府の確約が完全に履行されたとの確認を返還の際行なうことを約したのであります。

この会談で沖縄関係につきまして一番骨を折つたのは基地の整理縮小の問題であります。この問題につきましては、サン・クレメンテ会談において、佐藤総理及び私から大統領に対し、在沖縄米軍施設・区域、特に人口密集地域及び沖縄の産業開発と密接な関係にある地域の米軍施設・区域が復帰後できる限り整理縮小さ

れることが必要と考える理由を地図を拡げてる説明致しました。
その結果、大統領は、返還後に安保条約と両立する範囲内におきまして基地の整理統合の相談をいたしましようということを約したわけであります。従つて、復帰後整理縮小されるべき施設・区域につきましては、今後日米間において具体的に協議が進められることになりますが、前述のサン・クレメンテ会談の際の話合いの結果を十分ふまえつつ、現地の皆様の要望にも万全の考慮を払い、対米交渉に臨む考えであることをはつきり申し上げたいと思います。
さて、沖縄の本土復帰まで、あと八十日を残すのみとなりました。戦後四・半世紀以上にわたり、法律、経済、社会等のあらゆる分野で本土と異なつた諸制度の下におかれてきた沖縄の皆様にとつて、

祖国復帰ということは、皆様の実生活にとつても大きな変革であることを承知しております。その意味で、私はここで単に「復帰お目出度う」と申し上げるだけでなく、平和憲法の下に本土へ復帰することが、心から「復帰してよかつた」といつていただけるものとなるよう、復帰後の県民生活の確保と、向上に極力まい進する覚悟であることを一段と強く申し上げておきたいと存じます。
甚だ簡単でございますが以上御報告を兼ねまして御挨拶と致します。